



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1933, 13(150): 408-409

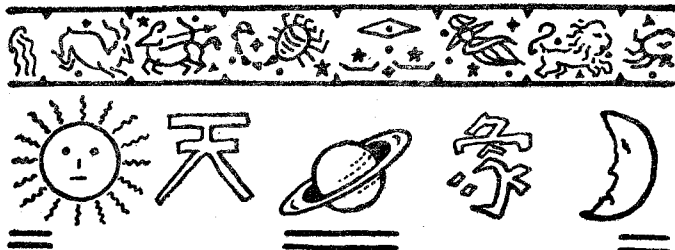
ISSUE DATE:

1933-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165421>

RIGHT:

一九三三年
(昭和八年)

+

(花山天文臺)

月

I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	太陽		月			月の相
	日出(星座)	日没	月齢	月出(星座)	月没	
日	時分	時分	日	時分	時分	
1	5 51 (をとめ)	5 41	10.8	16 29 (みづかめ)	3 23	○満月4日2時8分
6	5 55 „	5 35	15.8	18 51 (ひつじ)	8 52	
11	5 59 „	5 28	20.8	22 55 (ふたご)	13 26	●下弦12日1時46分
16	6 3 „	5 21	25.8	2 59 (しし)	15 44	●新月19日14時45分
21	6 8 „	5 15	1.4	8 45 (てんびん)	18 18	
26	6 12 „	5 9	6.4	13 30 (やぎ)	—	●上弦26日7時22分
31	6 17 „	5 4	11.4	15 50 (うし)	16 28	

II 天象

- 日 時 分
- 4, 2 8 満月・仲秋の名月。新月見は3日の夕方僅す方がよらしい。
- 5, 11 27 天王星(南 $5^{\circ}26'$)と月との會合。天王星は魚座の東部にある。
- 13, 5 — 金星が遠日點。金星は宵の明星であつて月初日没後約2時間、月末には3時間みえる。望遠鏡で見ると可愛らしい三日月形に見える。天秤座の南部より月末には蛇遣に迄順行する。光度約負3等7。
- 14, 21 — 金星(南 $1^{\circ}15'$)と火星の會合。
- 15, 3 — 土星の停留。土星には赤道帯に特に輝いた斑點が見える。之は去る八月3日獨乙の素人天文家 Weber 氏が友人に土星を見せてゐたとき偶然發見したもので、實に1876年以來57年振りでの珍らしい現象である。唯今は白い赤道帯一杯に擴つた輝く部分が2ヶ所あり其中に各々又特に輝くスポットがある。土星の中央に來たとき急に明るくなりB環の最も明るい部分より遙に明るい。自轉時間は10時間14分強で土星の自轉時間と一致してゐる。花山での觀測によると九月10日〇時13分頃先行する斑點が子午線通過をした自轉の方向は天體望遠鏡でみると、向つて右より左にまはるから右邊に現れて左邊に没する。
- 16, 11 21 海王星(北 $2^{\circ}21'$)と月との會合。海王星は獅子座の星の西北にあり順行中。光度、7等8。
- 18, 12 47 木星(北 $4^{\circ}59'$)と月との會合。木星は乙女座の西部にある。九月27日に太陽と會合をしたばかりで、まだまだ遠い。光度月末負1等2。對衝のときは視直径が $41''.4$ もあるが今は $29''$ しかなく、うんと小さい。曉の星。
- 19, 15 天王星の對衝。魚座0星の西を逆行中。光度6等。視直径 $3''.6$ 。
- 21, 8 29 水星(北 $2^{\circ}43'$)と月との會合。水星は月末には約1時間太陽に遅れて没する。
- 22, 15 59 火星(北 $4^{\circ}1'$)と月との會合。
- 22, 21 44 金星(北 $2^{\circ}21'$)と月との會合。
- 26, 20 34 土星(北 $30'$)と月との會合。土星と月とは非常に接近してゐるが今年12月20日の會合の時には土星は月にかくされる。同じく金星も月にかくされる。
- 28, 19 水星が東方に離角($23^{\circ}57'$)光度0度1. $\alpha=15^{\circ}39'.m8$, $\delta=-22^{\circ}29'$ 。直径 $6''.6$

本年十月の夜の天空

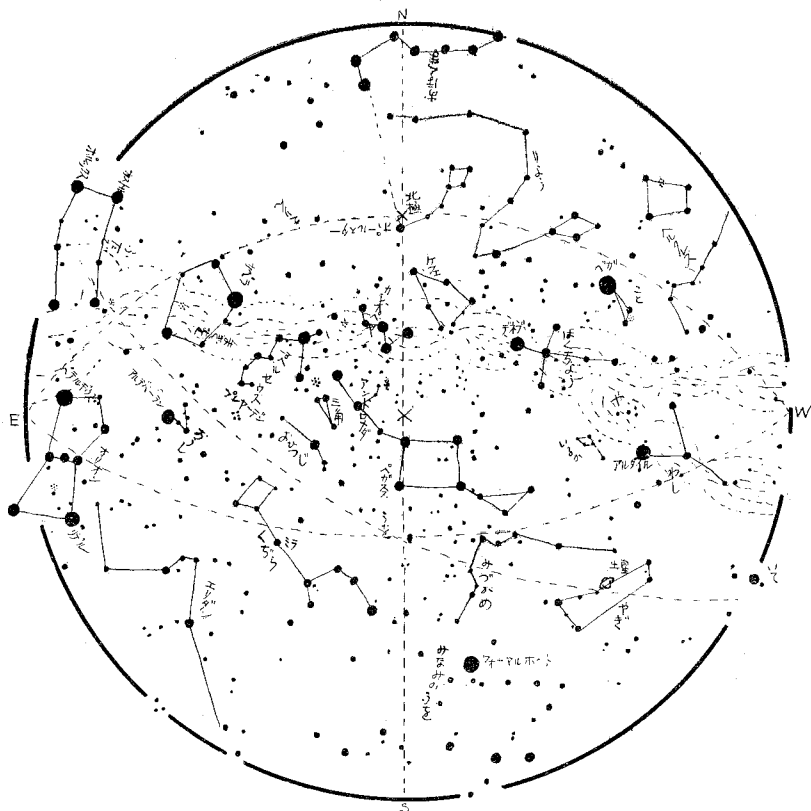
(恒星時 Sidereal Time 0時)

日本の中央部(京阪神地方)で

10月1日ならば午後9時

15日ならば午後8時

東京は約15分早く、福岡は約20分遅く現はる。但し時刻は日本中央標準時



III—十月の天空

銀河は東西に流れ、琴の α 星ベガ、鷲座の α アルタイル、白鳥のデネブ等西の空におりてゆく。北斗星は北の地平に降りきつてゐるから少しでも北方に山があれば見えない代つて現れたのはカシオペア座であつて少しくゆがんだW字形に2—3等星が連る。W字の開いた方向にある2等星が北極星である。カシオペア座の南にはペルセウス、アンドロメダの星座がある。秋の星は皆淡いから天頂附近に2—3等星で畫かれた大きな四邊形が見立つ。之はペガサス座である。土星が南の空から西に移つたあと南にやゝ低く輝く1等星は南魚座のフォールホートである。ペガサス座の南から西にかけて淡い星のある所が魚座でこゝには春分点がある。春分点は大体ペガサス平行四邊形の東の2つの星を南に1倍だけ延した所にある。

プレヤデスがほの白い光につつまれて東の空に見える。プレヤデスは冬の星々の先驅である夜更けての歸り路にオリオンや双子座等が東に昇つたのを見ると寒い冬の日の近づいて来る事を感じる。